

部 会 報 告

ISO/TC 127 ドイツ（ハンブルク市）国際総会報告

標準部会

国際標準化機構 ISO 専門委員会 TC 127（土工機械）第 30 回総会が 2025 年 3 月にドイツ（ハンブルク市）で開催されたので詳細につき報告する。

1. 開催日：2025 年 3 月 16 日（議長諮問委員会：CAG），17～20 日（TC 127 総会）
2. 開催地：ドイツ ハンブルク市 JUFA Hotel Hamburg Hafencity 会議室（写真—1）
3. 出席者：対面出席者：44 名，Web 経由参加者：5 名（TC 127/SC 3 総会の例（写真—2, 3））
対面参加者内訳：ブラジル（ABNT）1 名，米国（ANSI）7 名（Web 1 名），フランス（AFNOR）0 名（Web 2 名），インド（BIS）2 名，英国（BSI）2 名，ドイツ（DIN）6 名，日本（JISC）7 名（Web 1 名），韓国（KATS）2 名，オーストラリア（SA）1 名，中国（SAC）11 名，スウェーデン（SIS）1 名，イタリア（UNI）3 名（Web 1 名），ISO 中央事務局 1 名



写真—1 会議場（JUFA Hotel Hamburg Hafencity）

4. 全体日程：下記の通り

3 月 16 日（日）		
午後	議長諮問グループ会議（CAG）	
	JUFA Hotel Hamburg Hafencity 会議室	
3 月 17 日（月）		
午前	ISO/TC 127 総会（前半）	同上
午後	ISO/TC 127/SC 1 総会	同上
3 月 18 日（火）		
午前	ISO/TC 127/SC 2 総会	同上
午後	ISO/TC 127/SC 3 総会	同上
3 月 19 日（水）		
	ISO/TC 127/SC 4 総会	同上
	ISO 中央事務局による OSD の紹介	同上
3 月 20 日（木）		
	ISO/TC 127 総会（後半）	同上

5. 会議概要

日本は ISO/TC 127 設立当初より P メンバー（積極的参加国）として国際会議に参加し，かつ SC 3 分科委員会の国際議長及び幹事国業務を引き受け，日本発の土工機械が世界市場で占めるシェアに応じた国際貢献を行っている。ISO/TC 127 総会は加盟各国持ち廻りで開催しており，今回は欧州開催の順番であったためドイツ工業会 VDMA が主催した。

日本からの対面会議参加者は，ISO/TC 127/SC 3 国際議長の岡氏（コマツ），ISO/TC 127/SC 3 国際委員会マネージャーの正田氏（協会標準部），SC 1 国内分科会委員長の大本氏（コベルコ建機），SC 2 国内分



写真—2 全体集合写真



写真—3 TC 127 総会風景



写真—4 日本派遣団（撮影者：高山氏）

科会委員長の坂井氏（キャタピラージャパン）、SC 3 国内分科会委員長の後藤氏（コマツ）、SC 4 国内分科会委員長の高山氏（日立建機）、および日立建機の熊谷氏の計 7 名であった（写真—4）。

また、ISO/TC 127 日本国内委員会委員長の小塚氏が Web 会議経由で日本から参加した。

以下に、主な出席者が会議毎にまとめた報告を開催順序に沿って紹介する。

6. 議事

6.1 ISO/TC 127/CAG（議長諮問グループ会議）（3 月 16 日（日）午後）

総会への準備を主目的として、TC 127 米国議長団が対面会議と Web 会議併用のハイブリッド会議で運営した（以下の全会議も同様）。親 TC・各 SC の国際議長・委員会マネージャー及び各国使節団の代表らが出席し、総会運営上の注意事項や、規格開発上注意が必要な案件を打合せた。主な議事は以下の通り。

6.1.1 開会、委員自己紹介

TC 127 国際議長の Moughler 氏（米国）が開会を宣言し、各国首席代表らが自己紹介を行った。

6.1.2 各 WG の状況

ISO/TC 127 及び傘下の各分科委員会傘下の各作業グループ会議の日程案が紹介された。

6.1.3 ISO 規定の改訂状況

2025 年は ISO/IEC 専門業務用指針の改訂予定はないが、2026 年には全面改訂される予定。

6.1.4 SG 1 WG コンビーナについて

TC 127 直下の SG 1－オフロード作業機械調整グループ コンビーナ交代の意向の報告があった（6.2.2, 6.8.4.2 項参照）。

6.1.5 CEN（欧州標準化委員会）動向

英国代表が、CEN の直近の動向を報告した。
・現在 HAS コンサルタントから全 CEN 整合規格の

見直しを要望されている。TC 127 傘下には現時点で 13 の整合規格があるが、「HAS コンサルタント指摘の問題が解決しなければ、これらの規格の改訂は困難」と報告された。

6.1.6 今後の WG に活動予定

Moughler 議長より、今後の TC 127 傘下の WG 活動予定の報告があった。

6.1.7 直近のプロジェクトの課題

Moughler 議長より、「近年、ISO WG 会議の数は増える一方である」とのコメントがあった。

6.1.8 新業務の候補、ISO/TC 127 の業務効率改善など

中国から「電動土工機械エネルギー貯蔵システム（RESS）の安全性及び電気的性能要件について総会で審議したい」との申し入れがあった。これに対し TC 127 事務局が「資料を事務局が受領したのが本日で、各国に資料を事前配布できていないので、今回総会では提案の採否については審議できない。よって「その他」議案での一般審議としたい」と提案し、中国が受け入れた。

6.1.9 次回総会の場所

CAG 会議では、次回開催地に立候補する国はなかった。

6.1.10 その他

フランスより 2 件動議があった。

- ・「ISO 18758－ロックドリルリグの安全要求は、TC 82 親委員会が主導するプロジェクトであり、TC 127 は今まで合同 WG の立場で活動に参加してきた。一方、ロックドリルは本来 TC 82 専用機械であり、適用範囲に土工機械を含むべきではないため、今回 TC 127 総会で TC 82/JWG1 と TC 127 との現在のジョイント関係の解消を進めたい」との意見。
- ・「ISO 15143－施工現場情報交換を開発中の ISO/TC 127/SC 3/WG 5 と、ドイツ業界団体 VDMA 傘下のグループである MiC4.0 間で連携締結する動きがあるが、当連携締結は不要である」との意見。
- ・上記 2 件の意見に対し、TC 127 事務局より、「いずれも現在正式投票期間中であり、投票期間中の各国間意見調整行為は ISO/IEC 専門業務用指針に抵触するため、総会で審議すべきではない。フランスはまず投票を通じて意見を提出し、投票終了後に担当専門委員会がその意見に対処すべきと考える」と指摘し、フランスが了承した。

6.1.11 次回 CAG 開催日

次回親委員会総会時期との間隔を考慮し、2026 年 1 月または 2 月に Web 開催する予定とした。

6.2 ISO/TC 127 土工機械専門委員会 総会 前半 (3月17日 (月) 午前)

3月17日 (月) 午前に TC 127 総会の前半を開催した。総会運営上の注意事項などを紹介後、各国首席代表が自国の代表団を紹介し、議題案承認、決議起草委員会の選任、幹事国報告、ISO 中央事務局報告、親 TC 傘下の各業務項目及び作業グループ・特設グループの活動が報告され、各質疑が行われた。

6.2.1 CAG 報告

TC 127 委員会マネージャーの Seitz 氏 (米国) より、前日の CAG 会議での特記事項を報告した (6.1 項参照)。

6.2.2 親 TC 直属 WG 進捗状況報告

下記 WG 活動についての報告があった。

- ・ AHG 3: 中国からのブロックハンドラーの標準化提案を検討する有志プロジェクト: 2018 年の総会で中国から提案があった案件であり、コンビーナの Nilsson 氏 (スウェーデン) が報告した (6.8.4.3 項参照)。
- ・ SG 1: オフロード作業機械調整グループ: Crowell 氏 (米国) が現コンビーナの Roley 氏 (米国) の後任に就任予定であると報告 (6.8.4.2 項参照)。
- ・ WG 17 - 回生エネルギー貯蔵システム (RESS): コンビーナの Spomer 氏 (米国) より、DTR 投票後案文を見直し、現在 DTR2 投票に向けた準備中であると報告。

6.2.3 連携報告

フランス代表より TC 195/SC 3 の連携報告があった。その他の連携報告の会場での審議は省略された。

以上を持って月曜日の TC127 総会 (前半) は終了した。

6.3 ISO/TC 127/SC 1 安全及び性能試験方法 分科委員会 (3月17日 (月) 午後)

英国の SC 1 国際議長の議事進行のもと開催された。議長挨拶に続き、各国出席者の確認、ISO 行動規範の確認、議事案承認 (SC 1 文書 N948)、決議起草委員会委員の指名、幹事国報告 (SC 1 委員会マネージャーが SC 1 幹事国報告書 (SC 1 文書 N946) の内容を報告)、前回報告書 (SC 1 文書 N928) の内容の報告が行われたのち、議事案に沿って討議が進められた。主要な項目について概要を紹介する。

6.3.1 WG 5, WG 6 コンビーナの再指名

2024 年 12 月に行われた投票にて、WG 5 (運転員の視野) および WG 6 (エネルギー消費量試験方法) のコンビーナとして Crowell 氏 (米国) の 2027 年までの 3 年間の再指名が承認された、と報告された。

6.3.2 TC 127/SC 1/WG 5 - ISO 5006 - 運転員の視野

前回 SC 1 分科委員会での決議に基づいて行われた、2022 年の定期見直し時に提出された規格改訂の必要性に関するコメントのレビュー結果について、報告書 (SC 1 文書 N950, N951, N952) に基づいて議論を行い、数年間の活動において進展がないことから、WG の解散を決議した (決議 SC 1/335)。

6.3.3 TC 127/SC 1/WG 6 - ISO/PWI TS 11152 - エネルギー消費量試験方法

報告書 (SC 1 文書 N944) に基づいて、活動が活発に行われているとの報告があった。ホイールローダーの燃費計測手順に関する議論が進んだことから、これを扱う第 3 部を予備作業項目 (PWI) として登録すること、また併せてホイールローダーの専門家を募集することが合意された (決議 SC 1/334)。

6.3.4 TC 127/SC 1/WG 15 - ISO 7457 - ホイール式機械の回転半径測定方法

前回 2023 年 10 月の SC 1 分科委員会会合以降に行われた定期見直しの 13 件のうち、ISO 7457: 1997 について規格改訂作業を行うこと (決議 SC 1/336)、WG 7 を設立し専門家募集を行うこと (決議 SC 1/337) を決議した。ただし、WG 番号については「WG 7 ではなく WG 15 を設立すること」と総会後に修正された (SC 1 文書 N955)。

6.4 ISO/TC 127/SC 2 安全・人間工学・通則 分科委員会 (3月18日 (火) 午前・午後)

米国の SC 2 国際議長および委員会マネージャーの議事進行のもと開催された。議長挨拶に続き、各国出席者の確認、議事案 (SC 2 文書 N1915) の承認、決議起草委員会指名、幹事国報告が行われたのち、議事案に沿って討議が進められ、個別の規格について以下の通り協議、決議された。

6.4.1 TC 127/SC 2/AG 1 - 運転員保護構造

SC 2 議長から、運転員保護構造の活動進捗状況が不明のため、AG 1 コンビーナの Neva 氏 (米国) に対し、現在の活動進捗状況と今後の方針について、2025 年 4 月 30 日までに AG 1 の作業報告書を提出するよう依頼した (決議 SC 2/N1917-1)。

6.4.2 TC 127/SC 2/WG 15 - ISO 13649 - 火災防止

ISO 13649 が発行された事で業務完了となり、WG 15 の解散を決議した。

WG 15 コンビーナの Neva 氏 (米国)、および専門家の長年の活動に感謝の意が示された (決議 SC 2/N1917-3)。

6.4.3 TC 127/SC 2/WG 22 – ISO 17757 – 自律運転機械の安全性

SC 2 議長より、自律運転機械の要求事項等の確認に時間がかかっており進捗が停滞しているとの報告があった。

6.4.4 TC 127/SC 2/WG 24 – 19014 – 機械制御系 (MCS) の安全性

以下の理由から、ISO 19014 第1部～第5部の業務を一旦取り下げるようになった。

- ・欧州整合規格として開発されていない
- ・自動キャンセル期限が2025年9月と迫っている
- ・今後、さらに2回目 DIS 投票と FDIS 投票を実施する必要がある
- ・EU 機械規則が2027年1月20日から開始される

業務を一旦取り下げた後に、OSD の新規文書作成機能を用いて、5つのパートの DIS 案文を3月31日までに提出することとなった（決議 SC 2/N 1917-4～13）。

6.4.5 TC 127/SC 2/WG 28 – ISO/NP 21815 – 衝突気付き及び回避

ISO 21815 第4部は DIS 投票が実施され、6月の WG 会議で投票結果とコメントについて協議予定。同第5部については、2月にデンバーで WG 会議を開催し、CD 意見照会の内容を協議した。協議内容を反映した案文にて DIS 投票を開始予定。

運転員能力補強 (Operator Augmentation) ISO/PWI 25366 は前回の WD 意見照会の内容について6月に WG 会議を開催予定、その後、協議内容を反映した WD 案文について9月の WG 会議で検討予定。

6.4.6 TC 127/SC 2/WG 30 – ISO/FDIS 6683 – シートベルトの要求事項

FDIS 案文まで作成済であるが、その後 HAS コンサルタントより「EN または ISO/IE でない規格を引用しているのは不適切」との指摘があり、進捗が滞っていた。今回の総会で ISO 6683 はウィーン協定文書としての整合規格化を目指さないこととし、この決定を2025年3月31日までに ISO 中央事務局および CEN/TC 151 の事務局に報告することとなった（決議 SC 2/N1917-14）。

6.4.7 TC 127/SC 2/WG 31 – 合同 TC 127/SC 2 & TC 23/SC 15 – 運転席保護構造 – 材料性能要求事項

ISO 規格が発行された事で業務完了となり、WG 31 の解散を決議した。

WG 31 コンビナーの Neva 氏（米国）、および専門家の長年の活動に感謝の意が示された（決議 SC 2/N1917-15）。

6.4.8 TC 127/SC 2/WG 33 – ROPS 台上試験及び性能要求事項

プロジェクトが一度自動キャンセルされたことにより、CD 意見照会から再開する事となり、以下の予定で進めることとなった。CD 意見照会：4月30日、DIS：9月15日、FDIS：3月15日2026、追加の専門家登録も募集をかける（決議 SC 2/N1917-16）。

6.4.9 TC 127/SC 2/WG 34 – 硬質プラスチック安全ガラス

前コンビナーの退職後、進捗が見られなかったが、新コンビナーが指名されて活動が再開した。新規業務提案を2025年4月15日までに TC 127/SC 2 委員長に提出し、3か月間の新規業務提案投票を行う（決議 SC 2/N1917-17）。

6.4.10 TC 127/SC2 – ISO 13031：2016 FDAM – クリックアップラー 安全

FDAM 投票の結果、賛成多数で可決され、2025年2月5日に追補版が発行された。

6.4.11 TC 127/SC2/WG 35 – ISO/NP 22543 – 機械接近通報装置

CD 意見照会コメント審議の WG 会議を ISO 国際会議後に開催予定しており、その協議内容を受け、二回目の CD 投票を開始予定。

6.5 ISO/TC 127/SC 3 機械特性・電気及び電子系・運用及び保全分科委員会（3月18日（火）午後）

日本の SC 3 国際議長の議事進行のもと開催された。議長挨拶に続き、各国出席者の確認、ISO 行動規範の確認、議事案承認（SC 3 文書 N1238）、決議起草委員会委員の指名、前回報告書の内容の確認、幹事国報告が行われたのち、議事案に沿って討議が進められた。主要な項目について概要を紹介する。

6.5.1 TC 127/SC 3/WG 15 – ISO 6011 – 表示機器

ISO 6011 改訂版が2023年に発行されていることから、SC 3/WG 15 の解散を決議した（決議 326：2025）。

6.5.2 TC 127/SC 3/WG 12 – ISO 6405-1, 2 – 操縦装置などの識別記号

Crowell 氏（米国）から、バッテリーシステム用のシンボルを10個ほど提出することを米国で検討していると進捗報告があった。

6.5.3 TC 127/SC 3/WG 13 – ISO/TR ISO 6750-2 – 取扱説明書 – 第2部 参考資料のリスト

Larsson 氏（スウェーデン）から、「改訂を問う CIB が承認されたため、DTR 投票を実施予定である」と報告した。総会后、DTR 投票（2025/04/08-2025/06/03）が開始した。

6.5.4 TC 127/SC 3/WG 5 – ISO/TS ISO 15143-4 – 施工現場情報交換データ交換 – 第4部 地形データ

Kittle 氏（米国）から進捗を報告した。第4部地形データは発行済み。第3部テレマティクスデータ、第5部ロジスティクスデータを開発中。

6.5.5 TC 127/SC 3/JWG 16 – ISO/PWI 23870 – 高速相互接続 (HSI)

Moughler 氏（米国）から、5つの TC/SC (TC 22/SC 31, TC 23/SC 15, TC 23/SC 19, TC 82/SC 8, TC 127/SC 3) で構成される大規模な合同 WG で開発中であると進捗報告した。

6.5.6 ISO/TC 23/SC 19/JWG 10 – 合同 ISO/TC 23/SC 19/WG 10 – ISO/TC 127/SC 3 ISO 23285 – 極低電圧機駆動の標準化

Kittle 氏（米国）から、2/26 に規格が発行されたことを報告した。

6.5.7 ISO/TC 82/SC 8/JWG 3 – 合同 ISO/TC 82/SC 8 – ISO/TC 127/SC 3 WG – ISO/AWI TR 3502 – 高度な自動化と自律化のためのリファレンスフレームワークとアーキテクチャ

岡氏（日本）から進捗報告した。現在、開発進行中で、鉱山向けの規格であることを強調するために表題が修正された。

6.5.8 ISO/TC 82/SC 8/JWG 4 – ISO/TC 82/SC 8/JWG 4 – 合同 ISO/TC 82/SC 8 – ISO/TC 127/SC 3 WG – ISO/PWI 3510 – テレオペレーション、自律、有人のマイニング機器の相互運用性の仕様

岡氏（日本）から進捗報告した。現在、PWI 段階で進行中。

6.5.9 ISO/TC 23/SC 19/JWG12 – 合同 ISO/TC 127/SC 3 – ISO/WD 24882 – サイバーセキュリティエンジニアリング

現在、整合規格化を目指し進行中である、と報告した。

6.5.10 定期見直し投票報告

本総会にて以下6件の定期見直し投票を「確認」とすると決議した。

- ISO 8927 : 1991 – アベイラビリティ用語（決議 327 : 2025）
- ISO 12511 : 1997 – アワメータ（決議 328 : 2025）
- ISO 6750-1 : 2019 – 取扱説明書 - 第1部 - コンテンツ及びフォーマット（決議 329 : 2025）
- ISO 17215-1 : 2014 – 道路車両 - カメラ用ビデオ通信インターフェース (VCIC) - 第1部 - 一般情

報およびユースケース定義（決議 330 : 2025）

- ISO 17215-2 : 2014 – 道路車両 - カメラ用ビデオ通信インターフェース (VCIC) - 第2部 - サービスディスカバリと制御（決議 330 : 2025）
- ISO 17215-4 : 2014 – 道路車両 - カメラ用ビデオ通信インターフェース (VCIC) - 第4部 - 通信要件の実装（決議 330 : 2025）

6.6 ISO/TC 127/SC 4 商用名称・分類・格付け 分科委員会（3月19日（水）午前）

SC 4 はイタリア標準化機関 UNI が幹事を務めており、9年議長を務めた GAROFANI 氏から交代した新国際議長 GALASSI 氏および委員会マネージャー ROSSIGNOLO 氏が会議を運営した。新議長の挨拶に続き、各国使節団の紹介後、議事案 (SC 4 文書 N740) の承認、決議起草委員会指名、幹事国報告 ((SC 4 文書 N741) を用いて報告) が行われたのち、議事案に沿って討議が進められた。

6.6.1 TC 127/SC 4/WG 6 – ISO 7334 – 自動化および自律化の分類および語彙

コンビーナから状況報告書 (SC 4 文書 N743) と FDIS 投票結果 (SC 4 文書 N745) をベースに報告した。2025年3月末に初版が発行予定であることを踏まえ、発行後に WG 6 の解散が可能と報告し、新議長が参加メンバーに確認の結果、WG 6 の解散を決議した（決議 314/2025）。

【後記】ISO 7334 : 2025 は2025年3月28日に発行された。

6.7 ISO 中央事務局による OSD の説明会（3月19日（水）午前）

TC 127 テクニカルプログラママネージャーの Ferrés 氏より、ISO における新たな標準開発手法「Online Standards Development (OSD)」の説明会が行われた。

6.8 ISO/TC 127 土工機械専門委員会 総会 後半（3月20日（木））

初日に引き続き、米国議長及び委員会マネージャーが議事進行した。以下の通り報告し決議された。

6.8.1 各 SC 分科委員会報告

前日までに開催した各分科委員会の決議及びその他事項が報告された。

6.8.2 今後の新業務の候補について、その他

6.8.2.1 電動土工機械のエネルギー貯蔵システム (RESS) の安全性及び電氣的性能要件

「その他」議題において、中国国家標準化管理委員会 (SAC) より「電動土工機械のエネルギー貯蔵システム (RESS) の安全性及び電氣的性能要件」の発表があった。当資料は会議直前に配布されたため、総会での「新規業務提案」の決議対象とはされなかった。質疑応答において、米国委員より「詳細な技術検討に敬意と謝意を表する一方、電動建機の課題については TC 127 内でも検討しており、昨年末に TC 127 と TC 82 間で設立した「合同タスクフォース (JTF)」を通じて進め方を検討すべきと考える」との発言があり、日本を含む多数の国が米国意見に同意した。後述の決議では、「TC 127 と TC 82 の合同タスクフォース (JTF) における審議のため、発表資料 (TC 127 文書 N 1170) を JTF へ提出するよう中国に要請する」とされた (決議 355 : 2025)。

6.8.2.2 ISO 総会開催形式の見直しについて

フランス代表より、「ISO/TC 127 総会は、従来各各 SC 分科委員会総会の開催日を固定し、開始から終了まで 4.5 日かける形を何年も踏襲しているが、各会議の開始時間を順次繰り上げられるようにすれば総会議日数を減らすことができ、参加者の負担も減るのではないか?」との提案があった。これに対し、TC 127 事務局より、「よい考えであるので、今後 TC 127 内の各 SC 国際議長や委員会マネージャーで継続検討したい。」との回答があった。

6.8.3 次回総会の開催予定

次回 TC 127 総会は、中国 (上海を予定) にて 2026 年第 3 四半期 (10 月) に開催予定。詳細日時は後日決定する (決議 357 : 2025)。

6.8.4 決議・謝辞

下記決議 6 件、および謝辞 2 件が決議された (TC 127 文書 N1171 参照)。

6.8.4.1 決議 352 : 2025 決議起草委員会のメンバー

英国、ブラジル、ドイツ、中国、イタリア、日本、フランスからの各 1 名および TC 127 委員会マネージャーの計 9 名が決議起草委員会に立候補し、承認された。

6.8.4.2 決議 353 : 2025 TC 127/SG 1 コンビーナの指名

TC 127/SG 1 - オフロード作業機械調整グループ現コンビーナの Roley 氏 (米国) の退任に伴い、Crowell 氏 (米国) を新コンビーナとして 3 年の任期で指名する。

6.8.4.3 決議 354 : 2025 TC 127/AHG 3 の解散

TC 127/AHG 3 - ブロックハンドラーとホイールローダーの違いに関する調査の業務完了に伴い、TC 127/AHG 3 の解散を決定し、コンビーナの Nilsson 氏 (スウェーデン) の貢献に謝意を示した。

6.8.4.4 決議 355 : 2025 電動土工機械のエネルギー貯蔵システムの安全性及び電氣的性能要件

前述第 6.8.2.1 項参照

6.8.4.5 決議 356 : 2025 連携代表の募集

TC 127 委員会マネージャーに対し、以下の委員会への連携代表を 3 月 31 日までに募集するよう指示した。

- ・ TC 23 (農業および林業用機械)
- ・ TC 23/SC 15 (林業用機械)
- ・ TC 23/SC 19 (農業用電子機器)

6.8.4.6 決議 357 : 2025 次回 TC127 総会

前述第 6.8.3 項参照

6.8.4.7 会議主催者 (DIN : ドイツ規格協会および VDMA : ドイツ機械工業連盟) への謝辞

6.8.4.8 ISO 中央事務局への謝辞

[筆者紹介]



大本 康隆（おおもと やすたか）
コベルコ建機㈱
技術開発本部 知的財産部
標準化・コンプライアンス管理グループ
マネージャー



坂井 仁（さかい ひとし）
キャタピラージャパン（同）
Product Compliance & Support
リージョナルコンプライアンスマネージャー



後藤 優太（ごとう ゆうた）
㈱小松製作所
開発本部 業務部
規制・標準グループ



高山 剛（たかやま つよし）
日立建機㈱
研究・開発本部 法規管理部
部長



正田 明平（しょうだ みんぺい）
（一社）日本建設機械施工協会
標準部 部長

